

◆ 目 次

1 九州運輸局ホームページアップ情報（12月13日～12月19日掲載分）

- ・ 総合案内
- ・ 各種情報
- ・ 報道発表

2 現場レポート

- ・ 「省エネ促進フォーラム2012 in 熊本」を開催！
九州運輸局環境保全及び交通バリアフリー等関係表彰式を挙行政！
- ・ 海事施設見学会を開催
～金島小学校5年生に海事施設を見学してもらいました～
- ・ 「ポジティブ・オフ」運動について

3 九州運輸局セミナー

4 九州運輸局十大ニュース

1 九州運輸局ホームページアップ情報
（12月13日～12月19日掲載分）

----- 総合案内 -----

《業務内容》

◆ 船員の最低賃金（[3]漁業 上段2段の更新）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kaiji/file05_02.htm

----- 各種情報 -----

《入札・契約情報》

◆ 企画競争に係る実施結果の公表（平成24年12月7日分まで）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list.html#KIKAKU_KEKKA

◆ 企画競争入札実施公示（平成24年12月14日 3件）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list2.html#KIKAKU_KOUJI

《行政処分状況》

◆ 船舶運航事業者の安全確保命令等発出の状況

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/kaijyou/kaijyou241217.pdf>

《九州統計状況》

◆ 管内自動車整備工場数（平成24年3月末現在）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/file02.htm

----- 報道発表 -----

◆ 九州旅客鉄道（株）に対し警告書を発出

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2012-1213-anzensidou.pdf>

◆(株)五島産業汽船に対する輸送の安全確保に関する命令について

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2012-1217-unrokan.pdf>

—— 2 現場レポート ——

◆「省エネ促進フォーラム2012 in 熊本」を開催！

九州運輸局環境保全及び交通バリアフリー等関係表彰式を挙行政！

12月4日、地球温暖化問題への理解を深め、人と地球にやさしい運輸を目指すために情報を共有し、今後の省エネ対策の参考としていただくことを目的とする、「省エネ促進フォーラム2012 in 熊本」を開催しました。

はじめに、主催者を代表して佐藤九州運輸局長の挨拶があり、そのあと「低炭素社会に向けた交通輸送部門の役割」と題して、九州大学大学院の外井准教授に基調講演をいただきました。

次に、九州運輸局が所管する陸上・海上交通、観光、倉庫、港湾運送、造船等の分野において、環境保全の活動に顕著な功績があり、他の模範となるに相応しい事業者等に対する「九州運輸局環境保全及び交通バリアフリー等関係表彰」の環境保全部門の表彰式が執り行われ、次の事業者が受賞されました。

【株式会社光タクシー】福岡県北九州市

全ての従業員が環境保全意識等を共有し、事業活動から生じる環境負荷を低減する取り組みを行っており、継続的なエコドライブ活動等への熱心な取り組みにより環境保全に貢献した。

【美鈴観光タクシー有限公司】長崎県南松浦郡新上五島町

保有するディーゼル車の代替えに際して、CO₂排出量等を削減し、環境保全を図る目的で、積極的に電気自動車を導入することにより環境保全に貢献した。

休憩をはさんで、開催地自治体である熊本市環境局から、植木環境政策課長に「熊本市の低炭素都市づくりに向けて」と題して環境・省エネ対策の取り組み事例を紹介していただきました。

最後に、当日環境保全部門で表彰された株式会社光タクシーの石橋代表取締役社長に「(株)光タクシーの省エネ事業・企業のプライドと生き残りを懸けた環境への取り組みの実績」と題して、省エネ対策の事例をご紹介いただきました。

エコドライブ北九州への積極的参加、社内体制の構築、「グリーン経営認証取得」という形になる目標を作る、などの講演内容には、非常に参考になったと参加者の声が寄せられました。

熊本市での「省エネ促進フォーラム」開催は今回が初めてでしたが、80名弱の参加者があり、熱心に耳を傾けていました。

九州運輸局では、今後ともフォーラムの開催等を通じ省エネ対策を推進していきたいと考えています。

※当日の様子は下記のURLからご覧いただけます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_197.pdf

【交通環境部 環境課】

◆海事施設見学会を開催

～金島小学校5年生に海事施設を見学してもらいました～

平成24年12月13日(木)「九州海事産業次世代人材育成推進事業」の一環として、(財)九州運輸振興センターとの共催により、久留米市立金島小学校5年生の子供達を対象に海事施設の見学会を開催しました。

開催にあたっては、三菱倉庫(株)福岡支店と博多港ふ頭(株)の皆様にもご協力いただきました。

当日の天気は、今までの寒さが嘘のような暖かい日となり、金島小学校5年生の児童15名、引率教諭3名が海事施設の見学をしました。

中央ふ頭にある三菱倉庫に到着した子供達に、三橋副支店長から挨拶と倉庫の中での注意事項の話があり、倉庫に入る前には、全員に黄色いヘルメットが手渡され、ヘルメットを着けての見学が始まりました。

自動化倉庫では、4,300台ものパレットに載せられた荷物が、無人のクレーンによって出し入れされているとの説明があり、子供達は話の内容を熱心に自分の見学メモに書き込んでいました。

質問はありませんかの問いかけに対し、子供達から、「この倉庫にはどんなものが置いてありますか?」、「貼ってある数字は何ですか?」、「働いている時間はどのくらいですか?」と尋ねていました。

次に向かった場所は、香椎パークポートコンテナターミナルです。

ここでは、博多港ふ頭(株)の内田課長代理から、DVDを使って博多港が古くから国際交流の拠点としての役割を果たしていたことや香椎パークポートが約9,000個のコンテナを最新のコンピュータを使って管理しているといった話がありました。

会議室での話のあと、子供達は香椎パークポートが一望出来る屋上に出て、巨大なガントリークレーンを指さしながら見学をしていました。

金島小学校は、久留米市の東部に位置し海から離れた場所にあるため、港の施設に接する機会が少なく、初めて巨大クレーンを見た子供もいて、とても楽しそうな様子でした。

倉庫とコンテナターミナルの2つの海事施設を見学したあとには、子供達の代表者から「ありがとうございます」、「これからの学習に役立てます」と元気な声のお礼があり、無事に見学会は終了しました。

少子高齢化社会の到来の中、海事産業においては、特に高齢化の進行が顕著です。次世代を担う若い人材の確保が喫緊の課題であることから、九州運輸局では、今

後も積極的に人材育成事業に取り組み、海事産業の発展に寄与してまいります。

※海事施設見学会の様子は下記のURLからご覧いただけます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_197_2.pdf

【九州海事産業次世代人材育成推進協議会（九州運輸局 海事振興部）】

「ポジティブ・オフ」運動について

観光庁では、休暇改革の推進を図るため、東日本大震災を機にライフスタイルを見直す気運が高まっていることを捉えて、「ポジティブ・オフ」運動への賛同を各企業へ働きかけ、また、本運動の推進を各運輸局に指示しています。

（12月19日現在250社・団体登録）

九州運輸局も、管内の事業者には賛同し登録いただけるよう働きかけており、その一環として、九州運輸局として賛同し登録申請しました。（12月7日登録）読者の皆さんも、業務多忙とは思いますが、計画的に休暇を取られて、地域の祭り・行事への参加や街歩きから始めてみませんか？新しい発見があるかも知れませんよ。まずは年末年始から！

☆「ポジティブ・オフ」運動の概要

○趣旨・目的

- ・休暇を取得して外出や旅行などを楽しむことを積極的に促進し、休み（オフ）を前向き（ポジティブ）にとらえて楽しもう、という運動。
- ・東日本大震災を機に、ライフスタイルを見直す気運が高まっていることを捉えて運動を展開。
- ・休暇を取得しやすい環境を醸成し、外出・旅行を通じた経済活性化に貢献。
- ・長期的に、休暇を楽しむライフスタイルやワーク・ライフ・バランスの実現などの「ライフスタイル・イノベーション」につなげていく。

※詳細については下記のURLをご覧ください。

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/positive-off/>

【企画観光部観光地域振興課】

3 九州運輸局セミナー

九州運輸局の各課から業務内容等を紹介するコーナーです。

今回は、海上安全環境部 外国船舶監督官です。

日本の暮らしは外国船頼み？

我々日本人の暮らしが外国から輸入される物資で成り立っていること、そして、その輸送の殆どを船が担っていることは皆さんご存じだと思います。しかし、その輸送を担っているのが外国船だということは意外と知られていません。2011年の統計によると輸入貨物の90%、輸出貨物の97%が外国船での輸送となっており、九州（宇部、下関等山口県の一部を含む。）各港には年間、延べ約2万隻（2011年）の外国船が入港しています。ほとんどの外国船は適切に管理され安全に運航されていますが、これだけ多くの外国船が入港すると、中には安全性や海洋環境保護の面から問題を抱えた船舶が存在します。

安全の確保や海洋汚染防止はどうなっているの？

外国航路の船舶が安全に航海し、海洋環境への悪影響を最小限に止めるための基準は国際条約等で定められていて、船舶が基準に適合して運航するための検査や監督は、船舶が登録されている国（旗国といいます。）が実施しています。しかしながら、旗国の検査や監督が不十分なため、重要な機器が故障したまま、或いは、不適切な乗組員が配乗されて運航している船舶が存在していることが現実です。

P S C（ポートステートコントロール）とは？

外国航路の船舶の多くは世界中を航海しますので、旗国の監督には限界があります。そこで、旗国の検査や監督を補完するために、外国船が入港する港を管轄する国（寄港国）の職員が入港した外国船舶に立ち入り、船舶が所要の基準を満たしているかを検査（監督）することが国際条約で認められています。この立ち入り検査（監督）をP S C（ポート・ステート・コントロール）といい、日本では外国船舶監督官が実施しています。

具体的にはどんなことをするの？

P S Cは条約証書（旗国の検査に合格したことを示す証明書。）や乗組員の資格証明書（海技免状等）の確認から始めます。その後、救命設備や消防設備の点検・整備の状況、所要の船上訓練の実施状況、船内で発生したビルジ（油混の水。）の処理状況等が適切かどうか、乗組員へのインタビューや作成記録を基に確認します。そして、実際に船内を見て回り、航海用の設備やエンジン等に異常がないこと、万が一のために備え付けられた消防設備・救命設備が適切に保守されていること、甲板上の構造物に損傷や不具合がないか等を確認します。船舶を安全に運航するためには乗組員が設備等の使用方法を十分に理解し、いつでも利用できる状態を維持しておくことが何より重要ですから、現場を見て回る際には実際に設備を操作してもらったり、口頭で操作手順を説明してもらったりします。

殆どの場合、現場確認が終わると船長に結果を説明してP S Cを終了することとなりますが、管理の悪い船舶では、貨物の揚げ降ろし用のハッチがきちんと

締まらず、時化に遭ったら浸水してしまいそうな状況や乗組員が消防設備の操作に習熟しておらず、非常事態に対応できない状況等が確認されることがあります。こういった危険に直結する不具合がある場合は、不具合が解消されるまで船を出港させない措置を執ることがあります。

近隣諸国との協力って？

博多港等では、毎年、外国人P S C検査官の現場訓練を実施しています。船は世界中を動き回るため、それぞれの寄港国が単独でP S Cを実施しても効果に限界があり、より効果的、効率的なP S Cの実施を図るため、日本はアジア・太平洋地域における協力体制「東京MOU」に加盟しています。日本は主要メンバーとして地域のP S C体制の強化と向上に貢献しており、当局の外国船舶監督官も外国人P S C検査官向け研修で講師を務めたり、現場訓練等を通じて地域のP S C検査官を指導する等、地域協力の一翼を担っています。

外国船の乗組員にとっては招かれざる客、それが外国船舶監督官。
今後とも嫌われ者であり続けたいと思います。

【海上安全環境部 外国船舶監督官】

—— 4 九州運輸局十大ニュース ——

九州運輸局では、今年1年の締めくくりとして12月10日～14日にかけて全職員を対象にアンケートを実施し、「九州運輸局十大ニュース」を次のとおり決定しました。

なお、第5位については、投票数が同じため同順位としています。

【第1位】九州北部豪雨に対する九州運輸局災害対策本部を設置

【第2位】関越自動車道での高速ツアーバス事故を受け、各運輸事業者あて「ゴールデンウィーク期間中における公共交通機関の安全確保の徹底について」局長通達を発出

【第3位】夏の電力需給逼迫に対応し、本局・各支局・事務所において計画停電に備えると同時に節電を実施

【第4位】HTBクルーズ（株）が、長崎～上海間の対外旅客定期航路の運航を開始（ただし、10月以降運休）

【第5位】日本初の国産2階建てオープントップバス「福岡オープントップバス」が運行

【第5位】九州新幹線西九州ルート諫早・長崎間建設工事起工式

【第7位】新MOTAS運用開始

(新しい自動車登録検査業務電子情報処理システム)

【第8位】北朝鮮による「人工衛星」と称するミサイル発射

【第9位】川下り船の転覆事故に伴う川下り船等の安全指導実施(～9月)

【第10位】七隈線延伸整備計画(天神南～博多)許可

【総務部広報対策官】

//////// 編集部より //

あと10日余りで正月です。今年も10大ニュースの時期となりました。

変わったもの、変わらなかったもの、無くなったもの、出てきたもの、色々ありました。

変わらずに在り続ける為には、内部変革し挑戦し続けること、とはビジネス番組で聞いた言葉ですが、骨や皮膚の再生、災害後の復興など、そのことを感じさせるものは世の中に多々あるようです。

さて、我が家ではお雑煮を食べる前に汁物を出します。具材は鶏肉とゴボウですが、妻の実家では蛤です。鏡餅の添え物にも、妻方ではおひねり(米)が加わります。海沿いの家と米どころの家の違いでしょうか。巷ではワインに合う『おせち』も出てきているとか。

こうやって伝統も少しずつ変わり、新しいものや土地のものも取り入れて継続されていくのでしょう。

残っているものには大きなパワーが宿っているのは間違いなさそうです。

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧ください誠にありがとうございます。

編集部では、運輸と観光行政に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

//

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html

■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html

■九州運輸局メールマガジン編集部(九州運輸局総務部内)

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192
